

II 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業について紹介する。感染症発生動向調査のように通常年単位で報告する事業は、年単位の集計結果を記載した。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力ののもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図 II-1-1)。

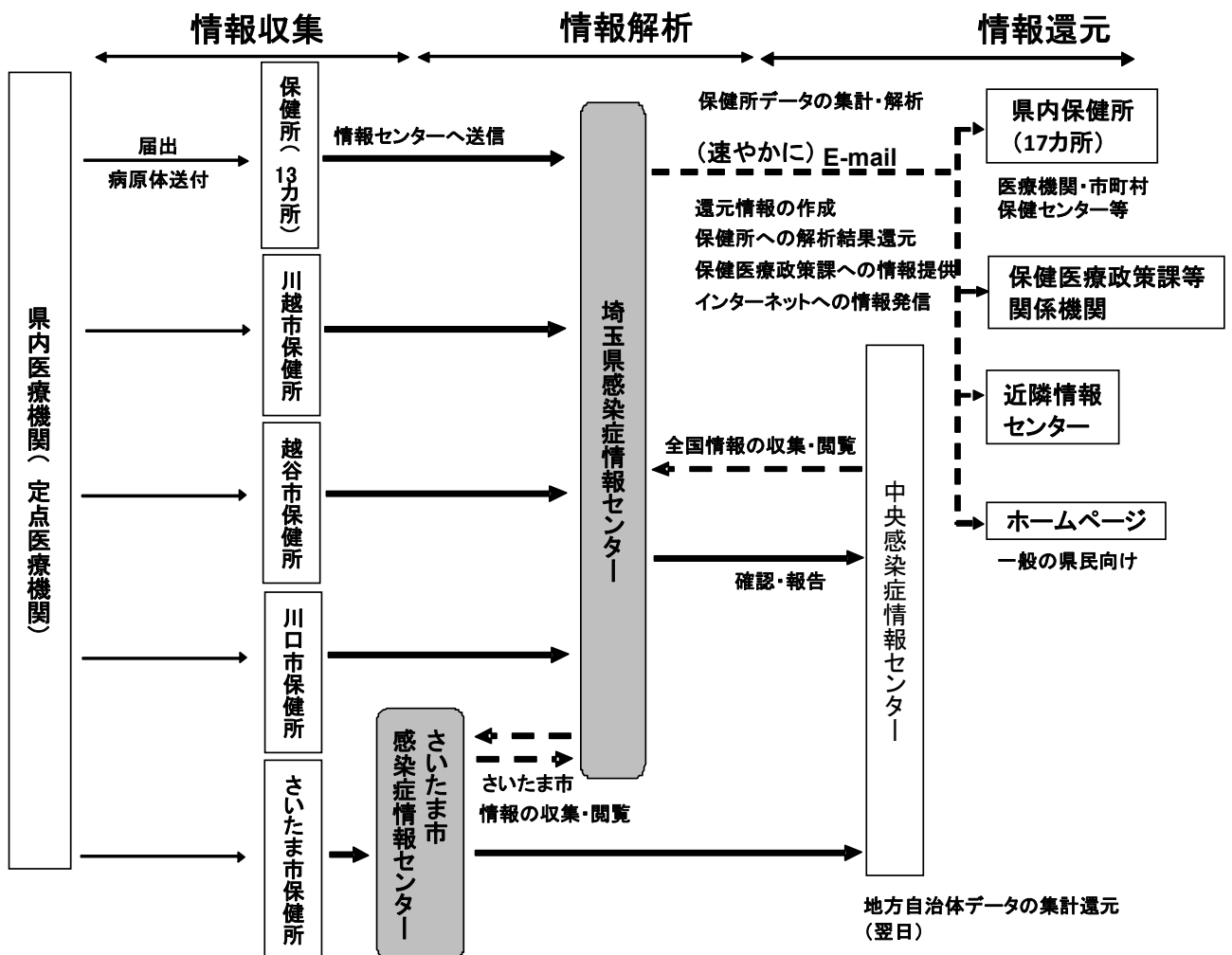


図 II-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

令和元年の発生動向調査では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令(平成 31 年厚生労働省令第 13 号)」が平成 31 年 2 月 14 日に公布され、より効果的に感染症の発生動向を把握することを目的に、疑似症の定義及び指定届出機関の指定の基準が変更された。この変更は平成 31 年 4 月 1 日から施行された。

また、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則第 4 条第 6 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める 5 類感染症及び事項の一部を改正する件(平成 30 年厚生労働省告示第 365 号)」及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正の目的は、後天性免疫不全症候群及び梅毒について、より有効な対策を講じるための詳細な発生動向の情報収集である。この変更は平成 31 年 1 月 1 日から施行された。

本資料では、全数把握疾患は診断日が平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は第 1 週(平成 30 年 12 月 31 日～平成 31 年 1 月 6 日)から 52 週(令和元年 12 月 23 日～29 日)まで、月単位報告疾患は 1 月から 12 月までの報告を集計し県内の動向をまとめた。また、全数把握疾患の病原体については、1 月 1 日から 12 月 31 日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。なお、本報告に用いたデータは、令和 2 年 2 月に感染症発生動向調査システムから収集した。

(1) 患者情報

a. 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症及び新型インフルエンザ等感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに届出)は 7 日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(a) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象となるが、令和元年は疑似症を含め届出はなかった(表Ⅱ-1-1)。

二類感染症は、結核 1,244 人の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅱ-1-1)。

表Ⅱ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾患名	埼玉県		
		令和元年	平成30年	平成29年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1,244	1,165	1,301
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	1	0
	細菌性赤痢	6	31	7
	腸管出血性大腸菌感染症	152	279	246
	腸チフス	1	1	3
	パラチフス	4	2	0

結核は、前年の 1,165 人と比べ大きく増加した。類型別では、患者 739 人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)500 人、疑似症 5 人であった。

表Ⅱ-1-2 結核 年齢階級別届出数(令和元年)

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	
10歳未満	-	24	-	24	2	23	-	25	49
10歳代	9	4	-	13	3	6	-	9	22
20歳代	36	30	-	66	17	36	-	53	119
30歳代	22	18	-	40	30	23	-	53	93
40歳代	40	30	-	70	25	48	-	73	143
50歳代	42	25	-	67	15	33	1	49	116
60歳代	61	34	1	96	18*	22	-	40	136
70歳代	104	56	-	160	45	39	1	85	245
80歳代	103	21	1	125	83	20	-	103	228
90歳以上	35*	3	-	38	49	5	1	55	93
合計	452	245	2	699	287	255	3	545	1244
割合	36.3%	19.7%	0.2%	56.2%	23.1%	20.5%	0.2%	43.8%	100.0%

* 感染症死亡者の死体1例を含む

(-0)

男性では、患者が 452 人、無症状病原体保有者が 245 人、疑似症患者が 2 人で、女性では、患者が 287 人、無症状病原体保有者が 255 人、疑似症患者が 3 人であった。年齢階級別では、男性は 60 歳以上が 59.9%を占め、70 歳代及び 80 歳代が多く、女性は 60 歳以上が 51.9%を占め、80 歳代が最も多かった。また、男性患者の 60 歳以上が占める割合は 67.0%、女性患者では 67.9%であった(表Ⅱ-1-2)。

(b) 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢 6 人、腸管出血性大腸菌感染症 152 人、腸チフス 1 人、パラチフス 4 人の計 163 人の届出があった(表Ⅱ-1-1)。

細菌性赤痢は、男性 3 人、女性 3 人の計 6 人の届出があり、前年の 31 人より大きく減少した。症例の年齢は 10 歳未満から 60 歳代に分布した。類型別では、患者 5 人、無症状病原体保有者 1 人であった。いずれも診断方法は便からの分離・同定による病原体の検出であり、菌種は *sonnei*(D 群)の検出が 5 人、*flexneri*(B 群)の検出が 1 人であった。推定感染地域は国外が 2 人(インドネシア 1 人、エチオピア 1 人)、国内が 2 人、国外(タイ)あるいは国内が 1 人、不明が 1 人であった。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性 69 人、女性 83 人の計 152 人の届出があった。前年の 279 人より大きく減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布した。年齢階級別では、例年 10 歳未満が最も多いが、令和元年は 20 歳代の 34 人が最も多く、次いで 10 歳未満及び 10 歳代の各 26 人の順であった。届出数は全ての年齢階級において前年を下回った。類型別では、患者 115 人、無症状病原体保有者 37 人で、患者が全体の 75.7%を占め、前年の 65.6%と比べ患者の割合は増加した。O 血清型は、O157 が 90 人と最も多く、次いで多かったのは O26 の 26 人で、O157 と O26 の全体に占める割合はそれぞれ 59.2%と 17.1%であった。年齢階級別では、O157 の検出が最も多かったのは 20 歳代、O26 の検出が最も多かったのは 10 歳代であった(表Ⅱ-1-3)。その他の血清型は O103 が 10 人、O111 が 7 人、O121 が 5 人、O8、O91 が各 2 人、O55、O145、O146、O174 が各 1 人、その他に型別不能(OUT)が 5 人、O 血清型不明が 1 人であった。届出は例年 8 月が最も多いが、令和元年は 7 月、9 月、8 月、6 月の順に多かった。6 月～9 月の届出数は 106 人で全体の 69.7%を占めた。溶血性尿毒症症候群(HUS)患者は、女性 3 人の発症が確認され、前年の 5 人と比べると患者における発症率は前年と同等であった。患者の年齢は 5-9 歳が 2 人、1-4 歳が 1 人であった。検出された大腸菌の O 血清

型は O157 が 2 人、O121 が 1 人であった。

表 II -1-3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数(令和元年)

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	26	11	15	24	2	13	4	9
10歳代	26	15	11	21	5	16	6	4
20歳代	34	16	18	27	7	22	5	7
30歳代	17	5	12	8	9	10	3	4
40歳代	20	11	9	13	7	10	4	6
50歳代	10	7	3	7	3	6	1	3
60歳代	7	1	6	6	1	5	-	2
70歳代	9	2	7	7	2	5	3	1
80歳以上	3	1	2	2	1	3	-	-
合計	152	69	83	115	37	90	26	36
割合	100.0%	45.4%	54.6%	75.7%	24.3%	59.2%	17.1%	23.7%

(-0)

腸チフスは、9月に男性10歳代1人の届出があり、前年の1人と同数であった。類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はパキスタンであった。

パラチフスは、男性3人、女性1人の計4人の届出があり、前年の2人を上回った。症例の年齢は20歳代から60歳代に分布した。いずれも類型は患者で、診断方法は分離・同定による病原体の検出で、2人が血液、2人が便から検出されていた。推定感染地域は、カンボディアが2人、バングラデシュ、ベトナムが各1人であった。

(c) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎21人、A型肝炎14人、チクングニア熱3人、つつが虫病1人、デング熱16人、日本紅斑熱1人、ボツリヌス症1人、マラリア2人、類鼻疽1人、レジオネラ症117人、レプトスピラ症1人の計178人の届出があった(表II-1-4)。

E型肝炎は、男性16人、女性5人の計21人の届出があり、前年の29人より減少した。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布し、50歳代の7人が最も多かった。類型は全て患者で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が8人、PCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が1人、血清IgA抗体の検出のみが12人であった。推定感染経路は経口感染16人、不明5人で、推定感染地域は国内20人、国外1人であった。

A型肝炎は、男性11人、女性3人の計14人の届出があり、前年の41人より大きく減少した。性比(男/女)は3.7で、前年の12.7を大きく下回った。症例の年齢は10歳代から70歳代に分布し、40歳代の5人が最も多かった。類型は全て患者で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が5人、血清IgM抗体の検出のみが9人であった。推定感染経路は経口感染が5人、性的接触が2人、経口感染あるいは性的接触が2人、不明が5人で、推定感染地域は国内が7人、国外2人、国内あるいは国外が1人、不明が4人であった。また、ワクチン接種歴を認めた症例はなかった。

チクングニア熱は、男性2人、女性1人の計3人の届出があり、前年の1人を上回った。症例の年齢は10歳未満から40歳代に分布した。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はミャンマーが2人、タイが1人であった。

つつが虫病は、12月に女性40歳代1人の届出があり、前年の4人を下回った。間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出で、推定感染地域は国内(県外)であった。

表Ⅱ-1-4 四類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和元年	平成30年	平成29年		令和元年	平成30年	平成29年
E型肝炎	21	29	19	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	14	41	12	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノコックス症	0	0	0	日本紅斑熱	1	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	0	1	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	1
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	1	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	0	マラリア	2	7	1
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	1	0	0
チクングニア熱	3	1	0	レジオネラ症	117	100	99
つつが虫病	1	4	2	レプトスピラ症	1	0	2
デング熱	16	2	12	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

デング熱は、男性 10 人、女性 6 人の計 16 人の届出があり、前年の 2 人より増加した。症例の年齢は 10 歳未満から 70 歳代に分布した。病型は、デング熱が 15 人、デング出血熱が 1 人であった。診断方法は、PCR 法による病原体遺伝子の検出及び NS1 抗原の検出が 4 人、NS1 抗原の検出のみが 8 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみ、ペア血清での血清 IgM 抗体の陽転のみが各 2 人であった。推定感染地域はインド、タイ、フィリピンが各 3 人、ベトナム、カンボディアが各 2 人、バングラデシュ、仏領ポリネシア、メキシコ・キューバが各 1 人であった。

日本紅斑熱は、7 月に女性 40 歳代 1 人の届出があった。診断方法は、PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出であった。推定感染地域は国内(県外)であった。

ボツリヌス症は、12 月に女性 40 歳代 1 人の届出があった。感染症法施行後、本県初の届出である。診断方法は血清及び便からの分離・同定による病原体の検出、かつ、毒素産生試験によるボツリヌス毒素の確認であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内であった。

マラリアは、8 月に男性 20 歳代 2 人の届出があり、前年の 7 人を下回った。病型は三日熱、熱帯熱が各 1 人であった。いずれも診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出で、推定感染地域はモザンビーク、ソロモン諸島が各 1 人であった。

類鼻疽は、9 月に男性 60 歳代 1 人の届出があった。診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出で、推定感染地域はタイであった。

レジオネラ症は、男性 98 人、女性 19 人の計 117 人の届出があり、前年の 100 人より増加した。症例の年齢は 10 歳代から 90 歳代に分布し、70 歳代、60 歳代、80 歳以上の順に多く、60 歳以上が全体の 80.3%を占めた。病型別では肺炎型 114 人、ポンティアック熱型 3 人で、肺炎型が全体に占める割合は 97.4%で、前年の 98.0%と同等であった。年間を通して届出はあったが、月別の届出数は 7 月の 27 人が最も多く、7 月から 11 月までは届出が多い状況が続いた。この 5 か月間の届出数は 75 人で全体の 64.1%を占めた。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が 114 人、LAMP 法による病原遺伝子の検出が 20 人、分離・同定による病原体の検出が 15 人、間接蛍光抗体法による血清抗体の検出が 1 人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内 103 人、不明 14 人で、国内感染例のうち県内は 81 人であった。

レプトスピラ症は、9 月に男性 40 歳代 1 人の届出があった。診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出で、推定感染経路は水系感染で、推定感染地域は国内(県外)であった。

(d) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢 36 人、ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)5 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 90 人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)4 人、急性脳炎 59 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 8 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 30 人、後天性免疫不全症候群 46 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 17 人、侵襲性肺炎球菌感染症 137 人、水痘(入院例)17 人、先天性風しん症候群 1 人、梅毒 205 人、播種性クリプトコックス症 9 人、破傷風 4 人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 人、百日咳 704 人、風しん 198 人、麻しん 35 人、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 人の計 1,608 人の届出があった(表 II -1-5)。

表 II -1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和元年	平成30年	平成29年		令和元年	平成30年	平成29年
アメーバ赤痢	36	44	53	侵襲性肺炎球菌感染症	137	137	130
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	5	10	11	水痘(入院例)	17	13	12
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	90	94	57	先天性風しん症候群	1	0	0
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)*	4	6	—	梅毒	205	234	234
急性脳炎	59	37	45	播種性クリプトコックス症	9	3	3
クリプトスポリジウム症	0	0	0	破傷風	4	3	2
クロイツフェルト・ヤコブ病	8	6	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	30	22	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	5	12
後天性免疫不全症候群	46	31	35	百日咳*	704	719	—
ジアルジア症	0	2	0	風しん	198	190	6
侵襲性インフルエンザ菌感染症	17	23	21	麻しん	35	16	5
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	1	2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	8	8

*百日咳は平成30年1月1日、急性弛緩性麻痺は平成30年5月1日から五類感染症の届出対象疾患となった

アメーバ赤痢は男性 34 人、女性 2 人の計 36 人の届出があり、前年の 44 人より減少した。症例の年齢は 30 歳代から 80 歳代に分布し、50 歳代の 16 人、60 歳代の 11 人の順に多かった。届出は年間を通して確認された。病型別では、腸管アメーバ症 33 人、腸管外アメーバ症 3 人であった。診断方法は、腸管アメーバ症ではいずれも鏡検による病原体の検出であった。腸管外アメーバ症は、鏡検による病原体の検出が 2 人、血清抗体の検出が 1 人であった。推定感染経路は性的接触 9 人、経口感染 4 人、不明 23 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触 3 人、同性間性的接触 1 人、異性同性不明 5 人であった。推定感染地域は、国内 24 人、国外 1 人、不明 11 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)は、B 型肝炎 2 人、その他のウイルス性肝炎 3 人の計 5 人の届出があり、前年の 10 人を下回った。B 型肝炎は 2 月に男性 20 歳代、10 月に男性 40 歳代の計 2 人の届出があった。い

ずれも、診断方法は血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出で、ウイルスの遺伝子型は A 型であった。推定感染経路は同性間性的接触が 1 人、異性間性的接触が 1 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。その他のウイルス性肝炎は、エプスタイン・バール・ウイルス(EBV)肝炎が 2 月に女性 30 歳代、11 月に男性 30 歳代の計 2 人、EBV とサイトメガロウイルス(CMV)による肝炎が 12 月に男性 20 歳代の届出があった。診断方法は、2 月及び 11 月の症例が EBV-VCA に対する IgM、IgG 抗体の検出、並びに EBNA の陰性確認で、12 月の症例は EBV と CMV に対する IgM 抗体の検出であった。推定感染経路はいずれも不明で推定感染地域は国内が 2 人、不明が 1 人であった。C 型肝炎の届出はなかった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 56 人、女性 34 人の計 90 人の届出があり、前年の 94 人と同等であった。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 72 人で全体の 80.0% を占めた。症状は尿路感染症が 31 人、菌血症・敗血症が 29 人、肺炎が 16 人、胆嚢炎・胆管炎が 11 人、腸炎・腹膜炎が 8 人、髄膜炎 1 人であった(重複例有り)。検査検体で多かったのは、血液・髄液の 35 検体、尿の 27 検体、喀痰の 13 検体であった。分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 46 株、*Enterobacter cloacae* が 29 株、*Escherichia coli* が 7 株、*Klebsiella pneumoniae* が 5 株、*Serratia marcescens* が 2 株、*Citrobacter freundii*、*Enterobacter sp.* が各 1 株であった。このうち 1 症例からは *K. aerogenes* と *E. cloacae* が分離されていた。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、男性 2 人、女性 2 人の計 4 人の届出があり、前年の 6 人を下回った。症例の年齢は 10 歳未満に分布し、1-4 歳、5-9 歳が各 2 人であった。いずれも病原体は特定されなかった。推定感染経路は接触感染が 1 人、飛沫・飛沫核感染と経口感染が疑われたものが 1 人、不明が 2 人で、推定感染地域は全症例が国内であった。

急性脳炎は、男性 31 人、女性 28 人の計 59 人の届出があり、前年の 37 人より大きく増加した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、10 歳未満が 41 人で全体の 69.5% を占めた。病原体別では、インフルエンザウイルスによるものが 18 人、ヘルペスウイルスが 7 人、パレコウイルスが 2 人、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ロタウイルス、風しんウイルスが各 1 人で、病原体が特定されなかったのは 28 人であった。また、届出は各月にあり、インフルエンザウイルスが検出された患者 18 人のうち 15 人は、1 月、2 月、11 月及び 12 月に診断されていた。推定感

染地域は、国内が 56 人、不明が 3 人であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、男性 4 人、女性 4 人の計 8 人の届出があり、前年の 6 人を上回った。症例の年齢は 50 歳代から 80 歳代に分布した。病型はいずれも古典型 CJD で、診断の確実度はほぼ確実が 6 人、疑いは 2 人であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性 15 人、女性 15 人の計 30 人の届出があり、前年と同数であった。症例の年齢は 20 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 21 人で全体の 70.0%を占めた。届出は 1 月から 12 月の各月にあり、6 月の 5 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 15 人、G 群が 11 人、B 群が 4 人であった。推定される感染経路は創傷感染が 19 人、飛沫感染及び接触感染が各 1 人、その他が 2 人、不明が 7 人で、推定感染地域は国内が 29 人、不明が 1 人であった。

後天性免疫不全症候群は、男性 43 人、女性 3 人の計 46 人の届出があり、前年の 31 人より増加した。男性の症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し、30 歳代の 15 人、40 歳代の 13 人の順に多かった。病型は AIDS が 15 人で、その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 8 人、クリプトコッカス症(肺以外)が 3 人、サイトメガロウイルス感染症(生後 1 カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外)が 2 人、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)、活動性結核(肺結核又は肺外結核)、単純ヘルペスウイルス感染症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、反復性肺炎、HIV 消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)が各 1 人であった(重複例有り)。また、その他(指標疾患を認めない患者)が 7 人、無症状病原体保有者が 21 人であった。推定される感染経路では性的接触が 33 人、不明が 10 人であった。性的接触の内訳は同性間性的接触が 21 人、異性・同性間性的接触が 6 人、異性間性的接触が 5 人、異性・同性不明性的接触が 1 人であった。女性の症例は 60 歳代が 2 人、20 歳代が 1 人であった。いずれも病型は無症状病原体保有者で、推定感染経路は異性間性的接触であった(表 II-1-6)。

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性 9 人、女性 8 人の計 17 人の届出があり、前年の 23 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 12 人で全体の 70.6%を占めた。小児では 5 歳未満が 2 人であった。診断方法は分離・同定による病原体の検出で、血液からの検出が 16 人、髄液からの検出が 1 人であった。ヒブワクチン接種歴は、有りが小児の 2 人、無しが 4 人、不明が 11 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が 7 人、接触感染が 1 人、不明が 9 人、推定感染地域は国内が 16 人、不明が 1 人であった。

表Ⅱ-1-6 後天性免疫不全症候群性別内訳(令和元年)

		男性 n=43		女性 n=3		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	-	0.0%	
	20歳代	8	18.6%	1	33.3%	
	30歳代	15	34.9%	-	0.0%	
	40歳代	13	30.2%	-	0.0%	
	50歳代	1	2.3%	-	0.0%	
	60歳代	4	9.3%	2	66.7%	
	70歳代	2	4.7%	-	0.0%	
80歳以上	-	0.0%	-	0.0%		
病型	AIDS	15	34.9%	-	0.0%	
	その他	7	16.3%	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	21	48.8%	3	100.0%	
推定感染地域	日本国内	29	67.4%	2	66.7%	
	その他(国外)	4	9.3%	1	33.3%	
	不明	10	23.3%	-	0.0%	
国籍	日本	36	83.7%	2	66.7%	
	その他	4	9.3%	-	0.0%	
	不明	3	7.0%	1	33.3%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	5	11.6%	3	100.0%
		同性間性的接触	21	48.8%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	6	14.0%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	1	2.3%	-	0.0%
	不明	10	23.3%	-	0.0%	

(届出数-:0)

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性 90 人、女性 47 人の計 137 人の届出があり、前年の 137 人と同数であった。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 99 人で全体の 72.3%を占めた。小児では 5 歳未満が 21 人であった。診断方法は、血液、髄液、その他の無菌部位(関節液)からの分離同定による病原体の検出が 137 人、髄液からの病原体抗原の検出が 10 人、血液からの PCR 法による病原体遺伝子の検出が 2 人であった(重複例有り)。症状は菌血症が 118 人(86.1%)、発熱が 114 人(83.2%)、肺炎が 69 人(50.4%)に認められた。ワクチン接種歴は、小児では有りが 23 人、無しが 3 人で、20 歳以上では、有りが 70 歳以上の 16 人及び 60 歳代の 2 人の計 18 人、無しが 34 人、不明が 59 人であった。推定感染地域は国内が 124 人、国外が 2 人、不明が 11 人であった。

水痘(入院例)は、男性 11 人、女性 6 人の計 17 人の届出があり、前年の 13 人を上回った。症例の年齢は 5 歳から 70 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 10 例、臨床診断例が 7 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出が 4 人、分離・同定による病原体の検出、ペア血清での抗体の検出が各 2 人、蛍光抗体法による抗原の検出、水疱内容液を検体としたイムノクロマト法による抗原の検出が各 1 人であった。ワク

チン接種歴は有りが 6 人、無しが 4 人、不明が 7 人であった。感染原因は飛沫・飛沫核感染が 3 人、接触感染が 2 人、不明が 12 人で、推定感染地域は国内が 15 人、不明が 2 人であった。

先天性風しん症候群は、1 月に男性 5 歳未満 1 人の届出があった。病型は CRS 典型例、診断方法は血清 IgM 抗体の検出、母親の妊娠中の風しん罹患歴は不明、母親のワクチン接種歴は有り(接種回数不明、接種日不明)、推定感染地域は国内であった。

梅毒は、男性 138 人、女性 67 人の計 205 人の届出があり、前年の 235 人より減少した。性比(男/女)は 2.06 で、前年の 1.83 と比べ性差がやや大きくなった。症例の年齢は、男性では 20 歳代から 80 歳代に分布し、30 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 76.1%を占めた。女性では 10 歳代から 90 歳代に分布し、20 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 79.1%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I 期)が 60 人、早期顕症梅毒(II 期)が 36 人、晩期顕症梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 38 人で、女性では早期顕症梅毒(I 期)が 8 人、早期顕症梅毒(II 期)が 30 人、晩期顕症梅毒が 1 人、無症状病原体保有者が 28 人であった。推定感染経路は、男性では性行為感染が 120 人、不明が 18 人、女性では性行為感染が 58 人、不明が 9 人であった。性行為感染の内訳で、男性の同性間性的接触は 22 人で、全体の 15.9%を占め前年の 9.9%に比べ増加した(表 II-1-7)。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 32.6%、従事歴が女性の 25.4%に認められた。HIV 感染症との合併は男性 4 人、妊娠は女性 9 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 175 人、国外が 2 人、国内あるいは国外が 1 人、不明が 27 人であった。

播種性クリプトコックス症は、男性 8 人、女性 1 人の計 9 人の届出があり、前年の 3 人より増加した。症例の年齢は 30 歳代から 80 歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が 6 人、病理組織学的診断が 1 人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が 1 人、分離・同定による病原体の検出及びラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が 1 人であった。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が 7 人、鳥類の糞などとの接触及び免疫不全が 1 人、原因不明が 1 人であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

表Ⅱ-1-7 梅毒性別内訳(令和元年)

		男性 n=138		女性 n=67		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	-	0.0%	
	10歳代	-	0.0%	5	7.5%	
	20歳代	31	22.5%	28	41.8%	
	30歳代	44	31.9%	17	25.4%	
	40歳代	30	21.7%	8	11.9%	
	50歳代	18	13.0%	4	6.0%	
	60歳代	6	4.3%	-	0.0%	
	70歳代	7	5.1%	2	3.0%	
	80歳以上	2	1.4%	3	4.5%	
病型	早期顕症梅毒(I期)	60	43.5%	8	11.9%	
	早期顕症梅毒(II期)	36	26.1%	30	44.8%	
	晩期顕症梅毒	4	2.9%	1	1.5%	
	先天梅毒	-	0.0%	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	38	27.5%	28	41.8%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	78	56.5%	49	73.1%
		同性間性的接触	22	15.9%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	3	2.2%	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	17	12.3%	9	13.4%
	不明	18	13.0%	9	13.4%	

(届出数-0)

破傷風は、男性 3 人、女性 1 人の計 4 人の届出があり、前年の 3 人を上回った。症例の年齢は 70 歳代から 80 歳代に分布した。診断方法はいずれも臨床決定で、推定感染経路は創傷感染が 2 人、不明が 2 人であった。推定感染地域はいずれも国内で、破傷風含有ワクチンの接種歴は、無しが 2 人、不明が 2 人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、3 月に女性 70 歳代、6 月に男性 80 歳代の計 2 人の届出があり、前年の 5 人を下回った。診断方法はいずれも分離同定による腸球菌の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われており、前者は血液から、後者は尿から *Enterococcus faecium* が分離されていた。推定感染地域はいずれも国内であった。

百日咳は、男性 308 人、女性 396 人の計 704 人の届出があり、前年の 720 人と同水準であった。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、階級別では 5-9 歳が 260 人、10-14 歳が 155 人で、5 歳から 14 歳が全体の 58.9%を占めた。20 歳以上は 196 人で全体の 27.8%を占め、40 歳代の 53 人が最も多かった。また、0 歳は 40 人で 5.7%であった(図Ⅱ-1-2)。前年 1 月 1 日から届出対象となり、月別の届出数の推移は前年 11 月の 125 人をピークに、前年 12 月から 4 月までは 90 人前後で推移し、7 月以降は 50 人を下回っている。診断方法は分離・同定による病原体の検出が 4 人、

病原体遺伝子の検出が 373 人、単一血清で抗体価の高値が 303 人、ペア血清で抗体価の陽転又は有意上昇が 14 人であった(重複例有り)。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有りかつ臨床的特徴を有した者は 18 人であった。ワクチン接種歴は有りが 433 人、無しが 41 人、不明が 230 人で、接種歴は有りのうち 4 回接種者は 392 人であった。また、0 歳では接種歴有りが 14 人(回数が 1 回：12 人、2 回：2 人)、無しが 26 人であった。また、0 歳の推定感染経路は、家族からの感染が 22 人、不明が 18 人で、家族の内訳は同胞が 13 人、父母が 11 人、祖父母等が 2 人であった(重複例有り)。推定感染地域は国内が 600 人、国外が 1 人、国内あるいは国外が 3 人、不明が 100 人であった。

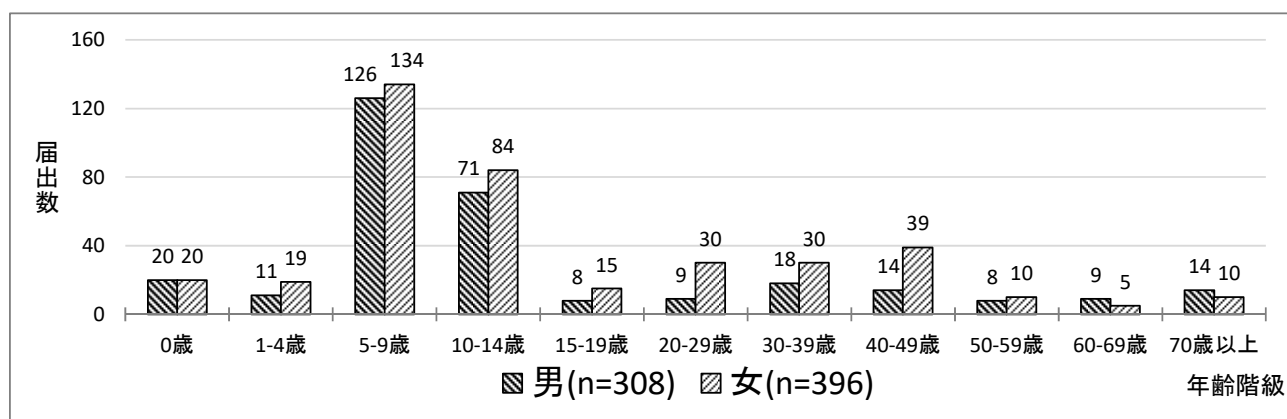


図 II -1-2 百日咳 性年齢階級別届出数(令和元年)

風しんは、男性 153 人、女性 45 人の計 198 人の届出があり、前年の 190 人と同水準であった。月別の届出数の推移は、前年 8 月から急激に増加し、令和元年 8 月まで多い状況が続き、平成 25 年以来の流行となった。症例の年齢は 0 歳から 60 歳代に分布し、男性では 40 歳代の 56 人、30 歳代の 43 人が多く、女性では 30 歳代の 14 人、20 歳代の 13 人が多かった(図 II -1-3)。病型は検査診断例が 184 人、臨床診断例が 14 人であった。検査診断例の診断方法は血清 IgM 抗体の検出が 130 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出が 67 人、EIA 法または HI 法によるペア血清での抗体の検出が 7 人であった(重複例有り)。ワクチン接種歴は、男性は有りが 11 人(7.2%)、無しが 43 人(28.1%)、不明が 99 人(64.7%)で、女性は有りが 12 人(26.7%)、無しが 9 人(20.0%)、不明が 24 人(53.3%)であった。接種歴有りの 23 人の接種回数は、2 回が 4 人、1 回のみが 19 人であった。推定感染地域は国内が 146 人、国外が 2 人、国内あるいは国外が 1 人、不明が 49 人であった。

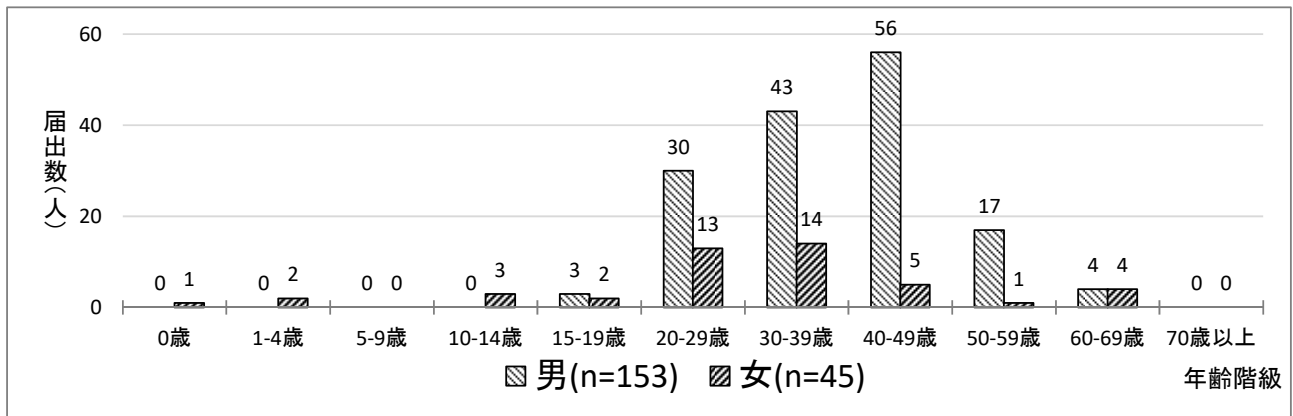


図 II -1-3 風しん性年齢階級別届出数(令和元年)

麻しんは、男性 20 人、女性 15 人の計 35 人の届出があり、前年の 16 人より増加した。症例の年齢は 0 歳から 40 歳代に分布し、30 歳代の 12 人、20 歳代の 10 人の順に多かった。病型は麻しん(検査診断例)が 22 人、修飾麻しん(検査診断例)が 13 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出が 32 人、血清 IgM 抗体の検出が 11 人であった(重複例有り)。PCR 法により検出された遺伝子型は B3 が 16 人、D8 が 15 人、型別不能が 1 人であった。ワクチン接種歴は、男性は有りが 6 人(30.0%)、無しが 7 人(35.0%)、不明が 7 人(35.0%)で、女性は有りが 4 人(26.7%)、無しが 3 人(20.0%)、不明が 8 人(53.3%)であった。接種歴有りの 10 人の接種回数は、2 回が 4 人、1 回のみが 6 人であった。推定感染地域は国内が 27 人、国外が 6 人、国内あるいは国外、不明が各 1 人であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、3 月に男性 60 歳代 1 人の届出があり、前年の 8 人より減少した。診断方法は、喀痰及び尿からの分離・同定による病原体の検出で、*Acinetobacter baumannii* と *A. haemolyticus* の 2 菌種が分離された。90 日以内の海外渡航歴は認められなかった。

(e) 獣医師が届出を行う感染症

令和元年に獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン)、結核(サル)、鳥インフルエンザ(H5N1 又は H7N9)(鳥類)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(イヌ)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の届出はなかった。

b. 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関(定点医療機関)からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科

及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを 1 週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、令和元年の報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ定点が 13,182 機関、小児科定点が 8,352 機関、眼科定点が 2,079 機関、基幹定点が 572 機関、月単位報告の性感染症定点が 700 機関、基幹定点が 132 機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表 II-1-8 から表 II-1-12、性感染症の性年齢階級別報告数を表 II-1-13 に示す。

(a) 週単位報告の感染症(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告)

インフルエンザの流行のピークは、平成 20 年以降では 2009-2010 年シーズン及び 2014-2015 年シーズンを除き、1 月から 2 月にかけて観察されている。2018-2019 年シーズンの流行期間は 11 月下旬から 4 月で、1 月から 2 月にかけて 5 週にわたり定点当たり報告数が 30 を超える大きな流行となった。2019-2020 年シーズンは 11 月中旬に流行入りし、12 月上旬には定点当たり報告数が 10.00 を超えた。

RS ウイルス感染症の流行のピークは、平成 28 年以降では 8 月から 10 月にかけて観察されている。令和元年の流行は 7 月から始まり、ピークは 9 月で、10 月まで続いた。

咽頭結膜熱の流行は、夏季と冬季に例年観察されている。令和元年は 5 月から 7 月にかけての夏季流行と 11 月から 12 月にかけての冬季流行が観察された。流行のピークは冬季流行が夏季流行を上回った。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行は、5 月から 6 月にかけてと 11 月から 12 月に例年観察されている。令和元年も同様の季節変動であったが、5 月から 6 月は例年よりやや低い水準、11 月から 12 月にかけてはやや高い水準で推移した。

感染性胃腸炎は例年 12 月をピークとして、11 月から 6 月にかけて報告数が多い状況が観察されている。令和元年 12 月のピークは、平成 22 年以降最も小さかった。

水痘の報告患者数は、平成 25 年以降減少傾向にあり、顕著な二峰性の季節変動が観察されていない。令和元年は 11 月から 12 月にかけて小規模な流行が観察されたが、5 月から 7 月にかけては顕著な流行は観察されなかった。

手足口病は平成 23 年以降、平成 25 年、平成 27 年、平成 29 年と隔年で大きな流行が観察されている。令和元年の流行のピークは過去最高を記録した。

伝染性紅斑は、数年を 1 周期とする流行が観察されている。令和元年は平成 30 年 5 月から始まった流行の最中にあり、報告患者数は前年の 1.6 倍であった。

突発性発しんは、例年同様に年間を通して常に報告はあったが、長期的には緩やかな減少傾向が続いている。

ヘルパンギーナの流行は、例年 7 月から 9 月にかけて観察されている。令和元年の流行のピークは、大流行した平成 26 年、平成 28 年に次いで高かった。

流行性耳下腺炎は、数年を 1 周期とする流行が観察されている。前回の流行は平成 27 年から始まり、平成 29 年に終息した。令和元年は平成 30 年に引き続き報告患者数に大きな変動は観察されなかった。

急性出血性結膜炎の大きな流行は、過去 10 年間、観察されていない。令和元年の患者報告は、5 月中旬から 7 月下旬まで毎週連続したほか、年間を通して断続的に観察された。

流行性角結膜炎は、平成 27 年、平成 29 年及び平成 30 年の夏季に報告患者数がやや増加する傾向があった。令和元年の報告患者数に年間を通して大きな変動は観察されなかった。

細菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は、0.22～1.89 であった。令和元年の定点当たり報告患者総数は 0.64 で、報告は例年同様に散発的であった。

無菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は、0.56～6.00 であった。令和元年の定点当たり報告患者総数は 3.55 で、報告は例年同様に断続的であった。

マイコプラズマ肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は、8.41(平成 30 年)～128.11(平成 24 年)であった。令和元年の定点当たり報告患者総数は 12.82 で、前年に引き続き少ない状況が続いている。

クラミジア肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は、0.37(平成 30 年)～6.33(平成 21 年)であった。令和元年の定点当たり報告患者総数は 0.09 で、減少傾向は続いている。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)は平成 25 年第 42 週から報告対象疾患となり、平成 26 年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は 4.02～11.40 であった。令和元年の定点当たり報告患者総数は 11.36 で、2 月から 6 月にかけて流行が観察された。

インフルエンザ(入院患者)は平成 23 年第 36 週から報告対象疾患となり、平成 24 年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は 14.60～38.80 であった。令和元年の定点当たり報告患者総数 52.64 は過去最大であっ

た。

(b) 月単位報告の感染症(基幹定点、性感染症定点)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 11 年の感染症法施行後およそ 10 年間は 30.00 を超えていたが、平成 25 年以降は 20.00 を下回っている。令和元年の定点当たり報告患者総数は 18.27 で、全国より少なかった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 17 年から平成 23 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は 5.00 で、全国より多かった。

薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 1.00 以上であったが、平成 20 年から平成 30 年までは 0.09～0.89 で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は 0.64 で、全国より多かった。

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 30.00 を上回っていたが、平成 20 年から平成 30 年までは 24.12～28.72 で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は 27.60 で、全国と同等であった。

性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 12 年以降、5.82～9.50 で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は 8.63 で、全国より少なかった。

尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、平成 12 年以降、3.95～6.28 で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は過去最低の 3.84 で、全国より少なかった。

淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 12 年以降、7.37～17.44 で推移している。令和元年の定点当たり報告患者総数は過去最低の 7.12 で、全国より少なかった。

c. 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

令和元年の埼玉県における「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の届出はなかった。

表Ⅱ-1-8 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位報告患者数の推移(令和元年)

週	月／日(週開始日～)	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜炎	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	12/31	3,193	26	20	128	542	106	17	98	17	-	10	4	9
2	01/07	10,618	57	47	393	1,717	88	24	282	56	1	14	1	25
3	01/14	17,857	44	36	445	1,496	48	24	274	48	1	13	-	16
4	01/21	21,527	45	26	533	1,603	53	28	252	51	-	12	-	17
5	01/28	16,881	54	22	507	1,491	46	28	193	50	-	17	-	20
6	02/04	9,820	40	41	476	1,315	46	12	152	45	4	17	2	20
7	02/11	3,993	43	38	405	1,012	36	15	140	42	1	11	2	21
8	02/18	2,547	43	34	487	1,185	42	16	148	62	2	13	1	16
9	02/25	1,539	45	48	525	1,141	50	13	127	53	1	27	-	19
10	03/04	1,012	53	48	506	1,076	75	15	121	69	3	18	2	20
11	03/11	546	40	63	474	1,126	75	18	167	63	2	24	-	19
12	03/18	439	49	54	448	990	83	21	126	67	2	18	-	28
13	03/25	417	41	63	341	888	86	19	112	52	3	20	1	23
14	04/01	277	48	46	343	921	74	14	115	73	1	17	-	19
15	04/08	370	60	45	364	1,145	85	13	115	73	2	16	3	21
16	04/15	766	83	56	495	1,571	63	18	191	102	4	13	-	20
17	04/22	713	77	50	561	1,656	103	20	176	112	2	30	1	27
18	04/29	210	26	17	127	336	45	5	69	31	1	11	-	4
19	05/06	175	36	67	373	1,094	152	21	171	90	4	22	1	17
20	05/13	239	34	83	599	1,527	72	30	210	98	2	10	-	31
21	05/20	112	77	115	573	1,421	115	62	198	103	9	26	1	12
22	05/27	91	36	115	576	1,299	90	81	164	112	6	33	1	22
23	06/03	72	40	140	546	1,248	126	112	152	90	13	27	4	26
24	06/10	25	36	127	527	1,186	85	188	141	92	23	26	5	27
25	06/17	27	39	145	525	1,187	76	385	222	100	62	30	3	24
26	06/24	54	40	112	511	994	111	888	164	99	148	25	2	35
27	07/01	22	56	152	509	1,099	109	1,798	204	101	376	18	1	22
28	07/08	45	105	148	444	1,042	110	3,025	177	94	704	32	2	30
29	07/15	15	117	116	380	783	69	3,748	200	75	795	22	5	29
30	07/22	19	191	93	335	721	101	4,138	170	86	923	17	2	37
31	07/29	17	278	82	264	651	69	2,862	146	82	800	19	5	27
32	08/05	9	290	80	236	599	54	1,694	115	88	591	15	-	39
33	08/12	10	193	69	134	267	28	574	48	38	182	6	-	14
34	08/19	19	249	85	194	562	50	543	102	72	231	16	2	26
35	08/26	107	355	73	240	494	33	542	135	76	240	18	-	30
36	09/02	143	405	69	292	543	70	526	134	81	222	16	3	31
37	09/09	196	428	69	296	594	33	498	127	81	188	18	-	30
38	09/16	99	402	84	273	552	57	445	74	65	144	18	-	16
39	09/23	104	331	73	263	519	41	365	76	72	104	14	4	22
40	09/30	97	279	62	311	611	56	412	72	78	85	21	-	21
41	10/07	123	185	52	330	569	55	369	54	69	60	13	1	22
42	10/14	96	137	56	306	543	62	309	42	63	44	22	-	18
43	10/21	118	103	73	322	568	55	312	68	62	18	26	-	23
44	10/28	161	110	62	432	570	67	327	71	62	23	13	-	17
45	11/04	115	59	56	392	612	78	323	48	55	33	15	1	16
46	11/11	269	63	94	586	680	111	188	55	71	17	18	-	16
47	11/18	575	60	92	539	747	116	189	75	67	12	13	1	19
48	11/25	1,502	56	112	674	1,027	153	156	61	65	12	9	2	22
49	12/02	2,894	59	129	711	1,123	194	170	59	55	16	20	2	21
50	12/09	5,376	61	160	709	1,310	163	123	55	60	5	23	5	23
51	12/16	7,630	61	164	732	1,426	198	107	54	58	5	15	-	26
52	12/23	7,209	69	141	566	1,321	156	92	50	39	6	15	3	23
令和元年	計	120,490	5,914	4,104	22,258	50,700	4,319	25,922	6,752	3,665	6,133	952	73	1,158
平成30年	計	104,379	5,012	4,086	26,292	51,340	4,331	5,613	4,192	4,158	5,146	952	77	2,049
令和元年/平成30年比		1.2	1.2	1.0	0.8	1.0	1.0	4.6	1.6	0.9	1.2	1.0	0.9	0.6

(-:0)

表Ⅱ-1-9 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)
週単位定点当たり報告数の推移(令和元年)

週	月／日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	12/31	13.65	0.18	0.14	0.89	3.76	0.74	0.12	0.68	0.12	-	0.07	0.10	0.23
2	01/07	41.80	0.35	0.29	2.44	10.66	0.55	0.15	1.75	0.35	0.01	0.09	0.03	0.63
3	01/14	70.03	0.27	0.22	2.75	9.23	0.30	0.15	1.69	0.30	0.01	0.08	-	0.39
4	01/21	84.09	0.28	0.16	3.27	9.83	0.33	0.17	1.55	0.31	-	0.07	-	0.41
5	01/28	65.68	0.33	0.13	3.11	9.15	0.28	0.17	1.18	0.31	-	0.10	-	0.49
6	02/04	38.36	0.25	0.25	2.94	8.12	0.28	0.07	0.94	0.28	0.02	0.10	0.05	0.50
7	02/11	15.54	0.26	0.23	2.48	6.21	0.22	0.09	0.86	0.26	0.01	0.07	0.05	0.51
8	02/18	9.95	0.26	0.21	2.99	7.27	0.26	0.10	0.91	0.38	0.01	0.08	0.02	0.39
9	02/25	5.99	0.28	0.29	3.22	7.00	0.31	0.08	0.78	0.33	0.01	0.17	-	0.46
10	03/04	3.95	0.33	0.29	3.10	6.60	0.46	0.09	0.74	0.42	0.02	0.11	0.05	0.49
11	03/11	2.12	0.25	0.39	2.91	6.91	0.46	0.11	1.02	0.39	0.01	0.15	-	0.46
12	03/18	1.71	0.30	0.33	2.77	6.11	0.51	0.13	0.78	0.41	0.01	0.11	-	0.68
13	03/25	1.62	0.25	0.38	2.08	5.41	0.52	0.12	0.68	0.32	0.02	0.12	0.02	0.56
14	04/01	1.07	0.29	0.28	2.10	5.65	0.45	0.09	0.71	0.45	0.01	0.10	-	0.46
15	04/08	1.44	0.37	0.28	2.23	7.02	0.52	0.08	0.71	0.45	0.01	0.10	0.07	0.51
16	04/15	2.97	0.51	0.34	3.04	9.64	0.39	0.11	1.17	0.63	0.02	0.08	-	0.49
17	04/22	2.82	0.47	0.31	3.44	10.16	0.63	0.12	1.08	0.69	0.01	0.18	0.03	0.71
18	04/29	0.93	0.19	0.12	0.91	2.40	0.32	0.04	0.49	0.22	0.01	0.08	-	0.11
19	05/06	0.69	0.22	0.42	2.32	6.80	0.94	0.13	1.06	0.56	0.02	0.14	0.02	0.41
20	05/13	0.93	0.21	0.51	3.67	9.37	0.44	0.18	1.29	0.60	0.01	0.06	-	0.76
21	05/20	0.44	0.48	0.71	3.54	8.77	0.71	0.38	1.22	0.64	0.06	0.16	0.03	0.30
22	05/27	0.35	0.22	0.71	3.56	8.02	0.56	0.50	1.01	0.69	0.04	0.20	0.02	0.54
23	06/03	0.28	0.25	0.87	3.39	7.75	0.78	0.70	0.94	0.56	0.08	0.17	0.10	0.63
24	06/10	0.10	0.22	0.79	3.27	7.37	0.53	1.17	0.88	0.57	0.14	0.16	0.13	0.68
25	06/17	0.11	0.24	0.89	3.22	7.28	0.47	2.36	1.36	0.61	0.38	0.18	0.08	0.60
26	06/24	0.21	0.25	0.69	3.15	6.14	0.69	5.48	1.01	0.61	0.91	0.15	0.05	0.88
27	07/01	0.09	0.34	0.93	3.12	6.74	0.67	11.03	1.25	0.62	2.31	0.11	0.03	0.55
28	07/08	0.18	0.65	0.92	2.76	6.47	0.68	18.79	1.10	0.58	4.37	0.20	0.05	0.75
29	07/15	0.06	0.72	0.71	2.33	4.80	0.42	22.99	1.23	0.46	4.88	0.13	0.12	0.71
30	07/22	0.07	1.17	0.57	2.06	4.42	0.62	25.39	1.04	0.53	5.66	0.10	0.05	0.90
31	07/29	0.07	1.72	0.51	1.63	4.02	0.43	17.67	0.90	0.51	4.94	0.12	0.13	0.68
32	08/05	0.04	1.91	0.53	1.55	3.94	0.36	11.14	0.76	0.58	3.89	0.10	-	1.15
33	08/12	0.04	1.38	0.49	0.96	1.91	0.20	4.10	0.34	0.27	1.30	0.04	-	0.40
34	08/19	0.08	1.55	0.53	1.20	3.49	0.31	3.37	0.63	0.45	1.43	0.10	0.05	0.65
35	08/26	0.42	2.20	0.45	1.49	3.07	0.20	3.37	0.84	0.47	1.49	0.11	-	0.75
36	09/02	0.57	2.52	0.43	1.81	3.37	0.43	3.27	0.83	0.50	1.38	0.10	0.08	0.79
37	09/09	0.79	2.73	0.44	1.89	3.78	0.21	3.17	0.81	0.52	1.20	0.11	-	0.79
38	09/16	0.40	2.53	0.53	1.72	3.47	0.36	2.80	0.47	0.41	0.91	0.11	-	0.41
39	09/23	0.40	2.04	0.45	1.62	3.20	0.25	2.25	0.47	0.44	0.64	0.09	0.10	0.56
40	09/30	0.38	1.73	0.39	1.93	3.80	0.35	2.56	0.45	0.48	0.53	0.13	-	0.53
41	10/07	0.50	1.16	0.33	2.08	3.58	0.35	2.32	0.34	0.43	0.38	0.08	0.03	0.56
42	10/14	0.38	0.85	0.35	1.90	3.37	0.39	1.92	0.26	0.39	0.27	0.14	-	0.45
43	10/21	0.46	0.63	0.45	1.98	3.48	0.34	1.91	0.42	0.38	0.11	0.16	-	0.56
44	10/28	0.64	0.68	0.39	2.68	3.54	0.42	2.03	0.44	0.39	0.14	0.08	-	0.44
45	11/04	0.45	0.36	0.35	2.42	3.78	0.48	1.99	0.30	0.34	0.20	0.09	0.02	0.39
46	11/11	1.04	0.39	0.58	3.60	4.17	0.68	1.15	0.34	0.44	0.10	0.11	-	0.39
47	11/18	2.24	0.37	0.57	3.33	4.61	0.72	1.17	0.46	0.41	0.07	0.08	0.02	0.46
48	11/25	5.84	0.34	0.69	4.13	6.30	0.94	0.96	0.37	0.40	0.07	0.06	0.05	0.54
49	12/02	11.26	0.36	0.80	4.39	6.93	1.20	1.05	0.36	0.34	0.10	0.12	0.05	0.53
50	12/09	20.84	0.37	0.98	4.35	8.04	1.00	0.75	0.34	0.37	0.03	0.14	0.12	0.56
51	12/16	29.57	0.37	1.01	4.49	8.75	1.21	0.66	0.33	0.36	0.03	0.09	-	0.63
52	12/23	28.61	0.43	0.88	3.52	8.20	0.97	0.57	0.31	0.24	0.04	0.09	0.08	0.59
令和元年 計		476.25	36.96	25.65	139.11	316.88	26.99	162.01	42.20	22.91	38.33	5.95	1.87	29.69
平成30年 計		409.33	31.13	25.38	163.30	318.88	26.90	34.86	26.04	25.83	31.96	5.91	1.93	51.23
令和元年/平成30年比		1.2	1.2	1.0	0.9	1.0	1.0	4.6	1.6	0.9	1.2	1.0	1.0	0.6

(-0)

※定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-10 定点把握対象疾患(基幹)

週単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和元年)

週	月／日 (～週開始日～)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院患者)	週	月／日 (～週開始日～)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ (入院患者)
1	12/31	-	-	-	-	-	22	1	12/31	-	-	-	-	-	2.00
2	01/07	1	-	1	-	2	67	2	01/07	0.09	-	0.09	-	0.18	6.09
3	01/14	1	2	4	-	1	98	3	01/14	0.09	0.18	0.36	-	0.09	8.91
4	01/21	-	1	2	-	1	65	4	01/21	-	0.09	0.18	-	0.09	5.91
5	01/28	-	2	3	-	-	60	5	01/28	-	0.18	0.27	-	-	5.45
6	02/04	-	-	2	-	1	64	6	02/04	-	-	0.18	-	0.09	5.82
7	02/11	-	-	-	-	3	14	7	02/11	-	-	-	-	0.27	1.27
8	02/18	-	-	1	-	2	18	8	02/18	-	-	0.09	-	0.18	1.64
9	02/25	-	2	1	-	6	9	9	02/25	-	0.18	0.09	-	0.55	0.82
10	03/04	-	1	-	-	5	5	10	03/04	-	0.09	-	-	0.45	0.45
11	03/11	-	-	1	-	8	5	11	03/11	-	-	0.09	-	0.73	0.45
12	03/18	-	1	-	-	12	2	12	03/18	-	0.09	-	-	1.09	0.18
13	03/25	-	1	1	1	7	1	13	03/25	-	0.09	0.09	0.09	0.64	0.09
14	04/01	1	-	-	-	2	2	14	04/01	0.09	-	-	-	0.18	0.18
15	04/08	-	1	-	-	9	3	15	04/08	-	0.09	-	-	0.82	0.27
16	04/15	-	1	-	-	1	2	16	04/15	-	0.09	-	-	0.09	0.18
17	04/22	-	-	1	-	9	4	17	04/22	-	-	0.09	-	0.82	0.36
18	04/29	-	1	-	-	7	3	18	04/29	-	0.09	-	-	0.64	0.27
19	05/06	-	-	-	-	10	-	19	05/06	-	-	-	-	0.91	-
20	05/13	-	-	-	-	6	2	20	05/13	-	-	-	-	0.55	0.18
21	05/20	-	-	-	-	6	-	21	05/20	-	-	-	-	0.55	-
22	05/27	-	1	1	-	9	-	22	05/27	-	0.09	0.09	-	0.82	-
23	06/03	1	-	3	-	2	3	23	06/03	0.09	-	0.27	-	0.18	0.27
24	06/10	1	-	1	-	3	-	24	06/10	0.09	-	0.09	-	0.27	-
25	06/17	-	-	2	-	4	1	25	06/17	-	-	0.18	-	0.36	0.09
26	06/24	-	1	1	-	1	-	26	06/24	-	0.09	0.09	-	0.09	-
27	07/01	-	-	1	-	2	-	27	07/01	-	-	0.09	-	0.18	-
28	07/08	-	2	1	-	1	-	28	07/08	-	0.18	0.09	-	0.09	-
29	07/15	-	1	-	-	-	-	29	07/15	-	0.09	-	-	-	-
30	07/22	-	1	3	-	-	-	30	07/22	-	0.09	0.27	-	-	-
31	07/29	-	-	2	-	-	-	31	07/29	-	-	0.18	-	-	-
32	08/05	-	1	-	-	-	-	32	08/05	-	0.09	-	-	-	-
33	08/12	1	-	1	-	1	-	33	08/12	0.09	-	0.09	-	0.09	-
34	08/19	-	-	4	-	-	15	34	08/19	-	-	0.36	-	-	1.36
35	08/26	-	-	6	-	1	1	35	08/26	-	-	0.55	-	0.09	0.09
36	09/02	-	3	3	-	-	-	36	09/02	-	0.27	0.27	-	-	-
37	09/09	-	2	2	-	-	-	37	09/09	-	0.18	0.18	-	-	-
38	09/16	-	2	2	-	-	1	38	09/16	-	0.18	0.18	-	-	0.09
39	09/23	-	-	3	-	-	1	39	09/23	-	-	0.27	-	-	0.09
40	09/30	-	-	5	-	-	1	40	09/30	-	-	0.45	-	-	0.09
41	10/07	-	-	9	-	-	3	41	10/07	-	-	0.82	-	-	0.27
42	10/14	-	1	10	-	-	-	42	10/14	-	0.09	0.91	-	-	-
43	10/21	-	1	7	-	-	-	43	10/21	-	0.09	0.64	-	-	-
44	10/28	-	-	7	-	-	1	44	10/28	-	-	0.64	-	-	0.09
45	11/04	-	4	4	-	1	1	45	11/04	-	0.36	0.36	-	0.09	0.09
46	11/11	-	2	8	-	-	-	46	11/11	-	0.18	0.73	-	-	-
47	11/18	-	1	5	-	-	1	47	11/18	-	0.09	0.45	-	-	0.09
48	11/25	-	3	11	-	-	6	48	11/25	-	0.27	1.00	-	-	0.55
49	12/02	-	-	6	-	-	18	49	12/02	-	-	0.55	-	-	1.64
50	12/09	1	-	3	-	1	17	50	12/09	0.09	-	0.27	-	0.09	1.55
51	12/16	-	-	8	-	1	32	51	12/16	-	-	0.73	-	0.09	2.91
52	12/23	-	-	5	-	-	31	52	12/23	-	-	0.45	-	-	2.82
令和元年	計	7	39	141	1	125	579	令和元年	計	0.64	3.55	12.82	0.09	11.36	52.64
平成30年	計	9	61	90	4	43	352	平成30年	計	0.84	5.70	8.41	0.37	4.02	32.90
令和元年/平成30年比		0.8	0.6	1.6	0.3	2.9	1.6	令和元年/平成30年比		0.8	0.6	1.5	0.2	2.8	1.6

(-0)

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-11 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和元年)

月	メシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	18	1.64	3	0.27	-	-
2月	16	1.45	7	0.64	-	-
3月	20	1.82	9	0.82	-	-
4月	19	1.73	1	0.09	-	-
5月	16	1.45	7	0.64	1	0.09
6月	21	1.91	3	0.27	-	-
7月	13	1.18	2	0.18	2	0.18
8月	16	1.45	5	0.45	-	-
9月	19	1.73	5	0.45	-	-
10月	10	0.91	4	0.36	-	-
11月	15	1.36	6	0.55	2	0.18
12月	18	1.64	3	0.27	2	0.18
令和元年 計	201	18.27	55	5.00	7	0.64
平成30年 計	199	18.60	65	6.07	1	0.09
令和元年/平成30年比	1.0	1.0	0.8	0.8	7.0	6.8

(-:0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-12 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和元年)

月	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	115	1.95	37	0.63	22	0.37	40	0.68
2月	114	1.93	41	0.69	17	0.29	27	0.46
3月	126	2.17	31	0.53	17	0.29	29	0.50
4月	126	2.21	39	0.68	15	0.26	32	0.56
5月	144	2.44	34	0.58	15	0.25	26	0.44
6月	143	2.42	53	0.90	20	0.34	39	0.66
7月	153	2.64	55	0.95	21	0.36	52	0.90
8月	144	2.48	48	0.83	24	0.41	48	0.83
9月	152	2.58	51	0.86	21	0.36	41	0.69
10月	130	2.28	47	0.82	10	0.18	25	0.44
11月	134	2.27	31	0.53	19	0.32	29	0.49
12月	128	2.21	36	0.62	23	0.40	27	0.47
令和元年 計	1,609	27.60	503	8.63	224	3.84	415	7.12
平成30年 計	1,559	26.74	454	7.79	263	4.51	507	8.70
令和元年/平成30年比	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	0.8

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅱ-1-13 定点把握対象疾患(性感染症)
性年齢階級別報告患者数の推移(令和元年)

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	-	-	-	-	1	-	-	-
10-14歳	-	3	-	-	-	-	-	1
15-19歳	29	103	1	26	4	5	18	11
20-24歳	124	363	7	73	7	29	59	29
25-29歳	122	264	11	77	17	25	73	18
30-34歳	81	163	14	45	9	19	34	10
35-39歳	67	80	10	41	21	14	43	12
40-44歳	50	43	10	28	11	13	30	5
45-49歳	39	23	13	36	14	5	19	8
50-54歳	23	8	6	35	9	2	18	3
55-59歳	9	2	6	10	6	2	12	3
60-64歳	4	1	2	12	4	1	4	-
65-69歳	1	3	-	9	2	-	-	2
70歳～	4	-	3	28	2	2	2	1
合計	553	1,056	83	420	107	117	312	103
男女比	0.52	1.00	0.20	1.00	0.91	1.00	3.03	1.00

(-0)

(2) 病原体情報

a. 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(a) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法(VNTR 法)等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。令和元年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は 262 株であった。これらの解析結果では、北京型は 184 株(70.2%)、非北京型は 74 株(28.2%)、型別できなかつたものが 4 株であった。さらに、北京型 184 株の系統推定では 128 株(69.6%)が祖先型、52 株(28.3%)が新興型、推定不能が 4 株であった。

(b) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症細菌は、赤痢菌 6 株、腸管出血性大腸菌 149 株、チフス菌 1 株、パラチフス A 菌 3 株の計 159 株で、コレラ菌は分離されなかつた。このうち国外感染例からの分離は、赤痢菌 3 株、腸管出血性大腸菌 3 株、チフス菌 1 株、パラチフス A 菌 3 株であった。国外感染の腸管出

血性大腸菌は、O111患者1人がインドネシア、O26患者2人がオーストラリアでの感染と推定された。国内感染例は、赤痢菌3株、腸管出血性大腸菌146株であった(表Ⅱ-1-14)。

表Ⅱ-1-14 埼玉県 の三類感染症細菌検出状況(令和元年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	3	3	1	3	10
国内感染	-	3	146	-	-	149
合計	-	6	149	1	3	159

(-:0)

赤痢菌の菌種は、*Shigella sonnei*が5株、*Shigella flexneri*が1株の計6株であった。このうち3株が海外渡航歴のある患者から分離されていた。渡航先はそれぞれタイ、インドネシア、エチオピアであった。国内感染が疑われる株は*Shigella sonnei*で3株あった(表Ⅱ-1-15)。

表Ⅱ-1-15 県内で分離された赤痢菌(令和元年)

分離月	菌種	性別	年齢	推定感染地域
5月	<i>S. sonnei</i>	男	30歳代	国内
9月	<i>S. sonnei</i>	男	50歳代	タイ
10月	<i>S. sonnei</i>	女	10歳未満	インドネシア
11月	<i>S. sonnei</i>	男	60歳代	国内
11月	<i>S. flexneri 1</i>	女	50歳代	エチオピア
12月	<i>S. sonnei</i>	女	10歳代	国内

腸管出血性大腸菌は149株が県内で分離された。血清型別では、15血清型が検出された。最も多く検出された血清型は例年同様O157:H7で79株(53.0%)、次いでO26:H11が20株(13.4%)であった。O157:H-が11株、O103:H2が10株、O111:H-が7株、O26:H-が6株、O121:H19が5株、その他の血清型は3株以下であった。毒素型では、VT2が65株(43.6%)、VT1が41株(27.5%)、VT1&2が43株(28.9%)であった(表Ⅱ-1-16)。このうちVTのvariantが2株あり、O157:H7でStx2c、O8:H19でStx2eが検出された。

表 II -1-16 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(令和元年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	—	50	29	79
O157:H—	—	3	8	11
O26:H11	18	2	—	20
O26:H—	6	—	—	6
O111:H—	1	—	6	7
O8:H19	—	2	—	2
O55:HUT	—	1	—	1
O91:H14	3	—	—	3
O103:H2	10	—	—	10
O121:H19	—	5	—	5
O145:H—	—	1	—	1
O146:H21	1	—	—	1
O174:H2	1	—	—	1
OUT:H2	1	—	—	1
OUT:H19	—	1	—	1
合計	41	65	43	149
	27.5%	43.6%	28.9%	

(数値部分の—:0)

チフス菌は、9月に10歳代男性から1株分離された。海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。推定感染地域はパキスタンで、ファージ型はUVS4であった(表II-1-17)。

パラチフスA菌は、4月に60歳代男性から、5月に20歳代女性と30歳代男性からそれぞれ1株、計3株分離された。カンボディア、バングラデシュへの海外渡航歴があり、発症状況から国外での感染が疑われた。ファージ型は、カンボディア由来の株の2株が2型、バングラデシュ由来の株が1型であった(表II-1-17)。

表 II -1-17 県内で分離されたチフス菌及びパラチフスA菌(令和元年)

分離月	血清型名	性別	年齢	ファージ型	推定感染地域
4月	S. Paratyphi A	男	60歳代	2	カンボディア
5月	S. Paratyphi A	女	20歳代	2	カンボディア
5月	S. Paratyphi A	男	30歳代	1	バングラデシュ
9月	S. Typhi	男	10歳代	UVS4	パキスタン

(c) 四類感染症の病原体検出状況

四類感染症のウイルスの月別検出状況を表II-1-18に示す。

E型肝炎は17例19検体が採取され、14例15検体からE型肝炎ウイ

ルスが検出された。遺伝子型は、G3 が 11 例、型別未確定が 3 例であった。ウイルスが検出された 14 例のうち 13 例に海外渡航歴は認められず、1 例は不明であった。

A 型肝炎は 8 例 9 検体が採取され、5 例 5 検体から A 型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、IA が 5 例であった。検出された 5 例のうち、1 例はメキシコへの渡航歴があり、4 例は海外渡航歴がなかった。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は 2 例 4 検体が採取されたが、SFTS ウイルスは検出されなかった。検出されたウイルスは、EB ウイルスが 1 例 2 検体であった。

チクングニア熱は 2 例 2 検体が採取され、2 検体からチクングニアウイルスが検出された。2 例ともミャンマーへの渡航歴があった。また、デング熱の診断名で採取された 1 例からチクングニアウイルスが検出された。この症例にはタイへの渡航歴があった。

デング熱は 16 例 19 検体が採取され、8 例 10 検体からデングウイルスが検出された。検出されたデングウイルスは 2 型が 3 例 3 検体、1 型が 2 例 3 検体、3 型が 2 例 2 検体、4 型が 1 例 2 検体で、すべて海外渡航歴のある症例であった。渡航先はインド及びフィリピンが 2 例、タヒチ、タイ、カンボディア及びバングラデシュがそれぞれ 1 例であった。

表 II -1-18 月別四類ウイルス検出状況(全数把握対象令和元年)

令和2年 1月30日 現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
E型肝炎	検体数	1		2	6	6	6	10	8	3	4	1	6	53	
	E型肝炎			1	2	5	2	1	1	1	2		4	19	
A型肝炎	検体数			1	4	1	1							9	
	A型肝炎	1		1	1	1		1						5	
重症熱性血小板減少症候群	検体数						3	1						4	EB(2)
	SFTS														
チクングニア熱	検体数							2						2	
	チクングニア							2						2	
デング熱	検体数							5	7	2	2	1	2	19	チクングニア(1)
	デング							4	4	1			1	10	

ボツリヌス症は、11月に県内医療機関入院患者 1 人の糞便から、ボツリヌス菌 (*Clostridium botulinum*) 及びボツリヌス毒素が検出された。毒素は A 型ボツリヌス毒素であった。また同患者の血清からも、ボツリヌス毒素が検出された。

レジオネラ症は、肺炎症状を呈する患者から *Legionella* 属菌 17 株が

分離され、16株が *Legionella pneumophila* 血清群 1、1株が *Legionella pneumophila* 血清群 6 であった。この他に、LAMP のみ陽性の *Legionella* 属菌は 9 株であった。

(d) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症では、7 菌種、90 株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)が分離された。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes* で 46 株(51.1%)、次いで *Enterobacter cloacae complex* が 23 株(25.6%)、*Escherichia coli* が 10 株、*Klebsiella pneumoniae* が 6 株、*Enterobacter sp.*、*Serratia marcescens* がそれぞれ 2 株、*Citrobacter freundii* が 1 株の順であった。

薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子(NDM 型、KPC 型、IMP 型、VIM 型、GES 型、OXA-48 型)6 種、基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ(ESBL)遺伝子(TEM 型、SHV 型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group)5 種、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子(ACC 型、CIT 型、DHA 型、EBC 型、FOX 型、MOX 型)6 種の計 17 種類について検査を実施した。カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)は、14 株(15.6%)であった。このうち IMP 型保有株は 10 株で CPE の 71.4%を占めていた。このほか NDM 型が 2 株、KPC 型、GES 型保有株がそれぞれ 1 株ずつ分離された。CPE の菌種は、*K. pneumoniae*、*K. aerogenes*、*E. cloacae complex*、*Enterobacter sp.*、*E. coli* の 5 菌種であった。ESBL 遺伝子保有株は 15 株(16.7%)、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子保有株は 14 株(15.6%)であった。

五類感染症全数把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 II-1-19 に示す。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、3 例 5 検体から 6 件のウイルスが検出された。エンテロウイルス D68 型の検出はなかった。検出されたウイルスは、パレコウイルス 3 型及び EB ウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、サイトメガロウイルス及びヒトヘルペスウイルス 7 がそれぞれ 1 件であった。このうち 1 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

急性脳炎は 44 例 124 検体が採取され、22 例 37 検体から 44 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 6 が 5 例 9 件、ライノウイルスが 4 例 4 件、パレコウイルス 3 型及びロタウイルス A 群がそれぞれ 3 例 5 件、EB ウイルスが 3 例 3 件、サイトメガロウイルス及びヒトパルボウイルス B19 がそれぞれ 2 例 3 件、コクサッキーウイルス B3 型及び単純ヘルペスウイルス 1 型がそれぞれ 1 例 2 件、

ヒトヘルペスウイルス 7、ノロウイルス、インフルエンザウイルス AH3 亜型、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザウイルス 1 型及びアデノウイルス 2 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 6 検体で、複数のウイルスが重複して検出された。重複して検出された検体は、ライノウイルスとパラインフルエンザ 1 型が 1 検体、ライノウイルス、サイトメガロウイルス及びアデノウイルス 2 型が 1 検体、ヒトヘルペスウイルス 6 と RS ウイルスが 1 検体、EB ウイルスとヒトヘルペスウイルス 7 が 1 検体、ノロウイルスとロタウイルス A 群が 1 検体、EB ウイルスとヒトメタニューモウイルスが 1 検体であった。また、複数の検体が採取された症例のうち 3 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症では 9 株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 4 株、*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE)4 株、B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) である *S. agalactiae* 1 株であった。*S. pyogenes* の *emm* 型は、*emm1.0* が 2 株、*emm12.0* が 1 株、*emm89.0* が 1 株であった。T 型別では、T1 型が 2 株、TB3264 型と T 型別不能がそれぞれ 1 株ずつであった。SDSE の *emm* 型は、*stG6792.3* が 2 株、*stG485.0*、*stG652.0* がそれぞれ 1 株であった。1 株分離の *S. agalactiae*(GBS)の莢膜型は V 型であった。

侵襲性肺炎球菌感染症由来のインフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae*) は、10 月に 1 株分離された。無莢膜型のインフルエンザ菌 (Non-typeable *H. influenzae* : NTHi) であった。

侵襲性肺炎球菌感染症由来の肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) は 3 月、11 月に 1 株ずつ、計 2 株が分離された。それぞれ小児と成人から 1 株ずつ分離された。それらの莢膜型/遺伝子型 (MLST) は、16F 型/ST3117、23A 型/ST10000 であった。16F 型、23A 型は、ワクチンに含まれていない莢膜型 (non vaccine type : NVT) であった。

先天性風しん症候群は 4 例 10 検体が採取されたが、風しんウイルスは検出されなかった。

播種性クリプトコックス症は *Cryptococcus neoformans* が 3 月と 11 月に 1 株ずつ、計 2 株分離された。

百日咳は *Bordetella pertussis* が 1 月に 1 株分離された。

風しんは 139 例 378 検体が採取され、51 例 109 件の風しんウイルスが検出された。検出された風しんウイルスの遺伝子型は、1E が 49 例及び型別未確定が 2 例であった。風しんウイルスの他には、ヒトパルボウイルス B19 が 8 例 19 件、エコーウイルス 18、単純ヘルペスウイルス 1 型、

ヒトヘルペスウイルス 6、インフルエンザウイルス AH3 亜型、インフルエンザ A 型亜型未確定、アデノウイルス 2 型がそれぞれ 1 件検出された。また、麻しんの診断名で採取された検体からも風しんウイルスは検出された。

表 II -1-19 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象令和元年)

		令和2年 1月30日 現在													
臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数	62	70	143	138	196	258	111	54	110	83	30	30	1285	パレコ 3(2)、EB(2)、サイトメガロ(1)、ヒトヘルペス 7(1)
	エンテロ D68				5	5		5			6			21	
急性脳炎 (四類以外)	検体数	17	1	22	5	6	8	15	8	10	15	15	2	124	
	コクサッキー B3								2					2	
	エンテロ nt										1			1	
	パレコ 3								4	1				5	
	ライノ			2			1					1		4	
	単純ヘルペス 1	2												2	
	EB					1		1		1				3	
	サイトメガロ						1					2		3	
	ヒトヘルペス 6	4						1			4			9	
	ヒトヘルペス 7													1	
	ヒトパルボ B19			2		1								3	
	ノロ				1									1	
	ロタ (A)			1	1				3					5	
	インフルエンザ AH3	1												1	
RS								1					1		
ヒトメタニューモ					1								1		
パラインフルエンザ1			1										1		
アデノ 2						1							1		
風しん	検体数	31	29	18	48	70	77	49	21	8	14		13	378	エコー 18(1)、エンテロ nt(1)、単純ヘルペス 1(1)、ヒトヘルペス 6(1)、ヒトパルボ B19(19)、インフルエンザ AH3(1)、インフルエンザ A(1)、アデノ 2(1)、アデノ nt(1)
	風しん	7	8	3	22	28	25	8	4	2	2			109	
先天性風しん 症候群	検体数	3		5				2						10	
	風しん														
麻しん	検体数	11	40	98	80	115	173	40	25	92	48	15	15	752	麻しん(ワクチン株)(12)、風しん(ワクチン株)(1)、コクサッキー A6(3)、コクサッキー B3(1)、エンテロ nt(2)、パレコ 1(1)、パレコ 3(1)、パレコ 6(1)、ライノ(5)、ヒトヘルペス 6(20)、ヒトヘルペス 7(3)、ヒトパルボ B19(43)、アデノ 1(1)、アデノ 2(3)、アデノ 5(1)、アデノ 6(1)、アデノ nt(3)、インフルエンザ AH1pdm09(1)、インフルエンザ AH3(2)
	麻しん	2	9	9	8	18	17	2		15				80	
	風しん	5	5	11	3	8	11			2				45	

麻しんは 278 例 752 検体が採取され、32 例 80 件の麻しんウイルス(ワクチン株を除く)が検出された。32 例の遺伝子型は、B3 が 16 例、D8 が 15 例及び型別未確定が 1 例であった。また、風しんウイルス(ワクチン株を除く)が 18 例 45 件から検出された。18 例の遺伝子型はすべて 1E であった。麻しんウイルス、風しんウイルス以外のウイルスは、ヒトパルボウイルス B19 が 20 例 43 件、ヒトヘルペスウイルス 6 が 17 例 20 件、ライ

ノウイルスが 5 例 5 件、コクサッキーウイルス A6 型及びアデノウイルス 2 型がそれぞれ 3 例 3 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 2 例 3 件、インフルエンザウイルス AH3 亜型が 2 例 2 件、コクサッキーウイルス B3 型、パレコウイルス 1 型、3 型、6 型、アデノウイルス 1 型、5 型、6 型及びインフルエンザウイルス AH1pdm09 がそれぞれ 1 件検出された。このうち 2 検体で複数のウイルスが重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち 3 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

薬剤耐性アシネトバクター感染症では、薬剤耐性アシネトバクター (MDRA)1 株が分離された。菌種は *Acinetobacter baumannii* であった。この菌は、染色体上に OXA 型カルバペネマーゼ OXA-51-like 遺伝子を保有し、さらに上流にプロモーター活性を有する挿入配列 (IS*Aba1*) が挿入されることで、カルバペネム耐性を示す菌である。

(e) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

五類感染症定点把握対象疾患のウイルスの月別検出状況を表 II-1-20 及び表 II-1-21 に示す。

表 II-1-20 月別インフルエンザウイルス検出状況
(定点把握対象令和元年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ	検体数	226	141	55	62	32	9	6	6	13	18	58	208	834	ヒトメタニューモ(6)、パラインフルエンザ 1(3)、パラインフルエンザ 2(1)、パラインフルエンザ 3(4)、コロナ(6)、ボカ(2)、コクサッキー B5(1)、ライノ(14)、アデノ 2(1)、アデノ nt(5)
	インフルエンザ AH1pdm09	82	24	10	9	2	2	3	4	10	16	55	190	407	
	インフルエンザ AH3	134	106	29	18	4			1		1	2	1	296	
	インフルエンザ A	2												2	
	インフルエンザ B	4	2	6	30	22	3			1			9	77	

令和2年 1月30日 現在

2018-2019 シーズンのインフルエンザは、平成 31 年 1 月から令和元年 8 月までに 537 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、AH3 亜型が 292 件、AH1pdm09 が 136 件、B 型 67 件、A 型亜型未確定が 2 件であった。このうち、1 検体で AH3 亜型と AH1pdm09 が重複して検出された。

2019-2020 シーズンのインフルエンザは、令和元年 9 月から 12 月までに 297 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、AH1pdm09 が 271 件、B 型が 10 件、AH3 亜型が 4 件であった。

インフルエンザウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 14 件、ヒトメタニューモウイルス及びコロナウイルスがそれぞれ 6 件、パラインフルエンザウイルス 3 型が 4 件、パラインフルエンザウイルス 1 型が 3 件、ボカウイルスが 2 件、パラインフルエンザウイルス 2 型、コクサッキーウイルス B5 型及びアデノウイルス 2 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 9 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

RS ウイルス感染症は 69 検体が採取され、42 件の RS ウイルスが検出された。検出された RS ウイルスの内訳は、RSV-A が 31 件、RSV-B が 11 件であった。RS ウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 14 件、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザウイルス 3 型及びボカウイルスがそれぞれ 4 件、コクサッキーウイルス B5 型が 2 件、パラインフルエンザウイルス 2 型、4 型、コロナウイルス、パレコウイルス 1 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 8 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

咽頭結膜熱は 26 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 1 型が 7 件、3 型が 6 件、2 型が 5 件、4 型が 2 件であった。アデノウイルス以外のウイルス検出は、コクサッキーウイルス A6 型、パレコウイルス 1 型、サイトメガロウイルス及びヒトヘルペスウイルス 6 がそれぞれ 1 件であった。このうち 1 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では、咽頭炎由来株から *Streptococcus pyogenes* が 9 株分離された。T 型別では、T1 型が 2 株、T4 型が 2 株、T12 型が 2 株で、T3 型、T6 型、T25 型がそれぞれ 1 株であった。*emm* 型では、未実施 1 株を除き、6 タイプ検出された。うち *emm4.0*、*emm12.0* が 2 株ずつ、*emm1.0*、*emm3.95*、*emm6.4*、*emm170.2* がそれぞれ 1 株ずつであった。

感染性胃腸炎は 130 検体が採取された。検出されたウイルスは、ノロウイルスが 33 件、アデノウイルス 40/41 型が 21 件、サポウイルス及びライノウイルスがそれぞれ 7 件、ロタウイルス A 群及びアデノウイルス 2 型がそれぞれ 6 件、アデノウイルス 1 型が 4 件、アストロウイルス、アデノウイルス 31 型、コクサッキーウイルス A16 型及びパレコウイルス 3 型がそれぞれ 2 件、コクサッキーウイルス A6 型、B3 型、エコーウイルス 18 型、エコーウイルス 25 型及びパレコウイルス 1 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 14 検体で複数のウイルスが重複して検出された。この他に細菌では、*Escherichia coli* が 2 月、4 月、7 月に 1 株ずつ計 3 株、*Campylobacter jejuni* が 10 月に 1 株分離された。

手足口病は 65 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A6 型が 29 件、コクサッキーウイルス A16 型が 16 件、コクサッキーウイルス A5 型及び A10 型がそれぞれ 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 2 件、パレコウイルス 3 型、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトパルボウイルス B19 及びパラインフルエンザウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった。このうち 1 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

伝染性紅斑は 2 検体が採取され、ヒトパルボウイルス B19 が 1 件検出された。

突発性発しんは 3 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった。

ヘルパンギーナは 7 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A5 型及び A6 型がそれぞれ 2 件、エコーウイルス 11 型が 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルスが 2 件、ヒトパルボウイルス B19 及び RS ウイルスがそれぞれ 1 件であった。このうち 2 検体で複数のウイルスが重複して検出された。

流行性耳下腺炎は 1 検体が採取され、アデノウイルス 2 型が検出された。

流行性角結膜炎は 8 検体が採取された。検出されたウイルスは、アデノウイルス 3 型が 3 件、アデノウイルス 37 型及び 56 型がそれぞれ 2 件、アデノウイルス 64 型 1 件であった。

無菌性髄膜炎は 78 例 190 検体が採取され、46 例 83 検体から 101 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ライノウイルスが 10 例 13 件、ヒトヘルペスウイルス 7 が 6 例 6 件、パレコウイルス 3 型が 5 例 12 件、コクサッキーウイルス B3 型が 5 例 11 件、サイトメガロウイルスが 5 例 6 件、EB ウイルスが 5 例 5 検体、水痘带状疱疹しんウイルスが 4 例 7 件、コクサッキーウイルス B5 型が 3 例 6 件、アデノウイルス 2 型が 3 例 3 件、エコーウイルス 30 型が 2 例 4 件、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトパルボウイルス B19 及びムンプスウイルスがそれぞれ 2 例 3 件、コクサッキーウイルス B4 型及びエコーウイルス 18 型がそれぞれ 1 例 4 件、コクサッキーウイルス A5 型、A6 型、エコーウイルス 15 型、エコーウイルス 25 型、パレコウイルス 1 型、アデノウイルス 1 型、単純ヘルペスウイルス 2 型、ボカウイルス及びパラインフルエンザウイルス 2 型がそれぞれ 1 件であった。このうち同一検体からヒトヘルペスウイルス 7 と EB ウイルスの重複検出が 3 例 3 検体、サイトメガロウイルスとライノウイルス及びライノウイルスとアデノウイルス 2 型の

重複検出がそれぞれ 1 例 2 件であった。また、ライノウイルスと水痘帯状疱疹しんウイルス、ライノウイルスとアデノウイルス 1 型、サイトメガロウイルスとヒトヘルペスウイルス 7、ムンプスウイルスとヒトヘルペスウイルス 6、エコーウイルス 18 と EB ウイルス、サイトメガロウイルスと未型別エンテロウイルスがそれぞれ重複して検出された。さらに、1 検体で、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス 6、ヒトパルボウイルス B19、ライノウイルス、EB ウイルス及びアデノウイルス 2 型が重複して検出された。また、複数の検体が採取された症例のうち 9 例で、検体ごとに異なるウイルスが検出された。

表Ⅱ-1-21 月別五類ウイルス検出状況(定点把握対象令和元年)

令和2年1月30日 現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
		37	26	24	38	43	35	51	51	62	41	52	28	501	
RSウイルス 感染症	検体数	2	2	6	6	6		4	5	17	10	5	6	69	ヒトメタニューモ(4)、パラインフルエンザ 2(1)、 パラインフルエンザ 3(4)、パラインフルエン ザ 4(1)、コロナ(1)、ボカ(4)、アデノ nt(1)、コク サッキー B5(2)、パレコ 1(1)、ライノ(14)
	RS	2	2	3	3	1		3	2	13	5	4	4	42	
咽頭結膜熱	検体数		2	1	1	5	4	4	2	1	3	1	2	26	
	アデノ 1			1	1	1	2	1					1	7	アデノ nt(1)、コクサッキー A6(1)、パレコ 1(1)、サイトメガロ(1)、ヒトヘルペス6(1)
	アデノ 2		1			1	1	2						5	
	アデノ 3		1			1		1	1			1	1	6	
	アデノ 4					1				1				2	
感染性胃腸炎	検体数	13	15	8	17	14	13	12	6	3	10	5	14	130	
	ノロ	6	8	3	1	1	3	1					10	33	アデノ 1(4)、アデノ 2(6)、アデノ 31(2)、アデノ nt(1)、コクサッキー A6(1)、コクサッキー A16(2)、コクサッキー B3(1)、エコー 18(1)、エ コー 25(1)、パレコ 1(1)、パレコ 3(2)、ライノ(7)
	サポ	2					3	2						7	
	アストロ	1	1											2	
	ロタ (A)	2			3	1								6	
	アデノ 40/41	1			6	3	5	3	1		1	1		21	
手足口病	検体数	1	2	1	3		9	17	10	12	3	4	3	65	
	コクサッキー A5									1				1	エンテロ nt(2)、パレコ 3(1)、ライノ(2)、アデノ nt(2)、ヒトヘルペス6(1)、ヒトパルボ B19(1)、 パラインフルエンザ3(1)
	コクサッキー A6						6	12	8	3				29	
	コクサッキー A10									1				1	
	コクサッキー A16			1				4		1	3	4	3	16	
伝染性紅斑	検体数		1		1									2	
	ヒトパルボ B19				1									1	
突発性発しん	検体数				1		1					1		3	
	ヒトヘルペス 6														
ヘルパンギーナ	検体数				1		1	2	2	1				7	
	コクサッキー A5								2					2	エコー 11(1)、ライノ(2)、アデノ nt(1)、ヒトパル ボ B19(1)、RS(1)
流行性耳下腺炎	検体数					1								1	
	ムンプス					1								1	アデノ 2(1)
流行性角結膜炎	検体数				1		2	2		1		2		8	
	アデノ 3				1			1				1		3	
	アデノ 37						1	1						2	
	アデノ 56						1				1			2	
	アデノ 64									1				1	
無菌性髄膜炎	検体数	21	4	8	7	17	6	22	26	27	15	34	3	190	
	コクサッキー A5							1						1	
	コクサッキー A6							1						1	
	コクサッキー B3						1	4		4		2		11	
	コクサッキー B4								4					4	
	コクサッキー B5	3										3		6	
	エコー 15							1						1	
	エコー 18									4				4	
	エコー 25									1				1	
	エコー 30											4		4	
	エンテロ nt						1	1						2	
	パレコ 1	1												1	
	パレコ 3							4	4	3		1		12	
	ライノ	2				4				1	1	5		13	
	アデノ 1					1								1	
	アデノ 2	2										1		3	
	単純ヘルペス 2				1									1	
	水痘帯状疱疹しん			2		1				2			2	7	
	EB	2			1					1			1	5	
	サイトメガロ	1			1				1		1		2	6	
	ヒトヘルペス 6	3												3	
	ヒトヘルペス 7	1			2	1				1		1		6	
	ヒトパルボ B19	2								1				3	
ムンプス	2										1		3		
ボカ			1										1		
パラインフルエンザ2									1				1		